

日時：令和6年4月26日（金）

午後2時30分～4時30分

会場：小山高等学校 第一応接室

1 開会（校長挨拶）

- ・4/9 全日入学式、4/10 定時入学式、4/9（午後）御殿場特別支援学校小山分校開校。様々な機会でも共生教育に取り組みたい。
- ・忌憚のない御意見をいただき反映させながら、学校として成長していきたい。

2 授業見学（全日制・6時間目） 分校の様子も併せて見学

3 協議等

(1) 会長・副会長の選出

湯山伸彦委員を会長に選出。齋藤広人委員を副会長に選出。承認

(2) 学校概要、学校経営計画について説明

スクールミッション、スクールポリシー、学校経営計画における本年度の取組を説明

【全日制】小柳出副校長

- ・小山町との深い関わり（町議会、中国海寧市や小山町内中学校との交流等）
- ・生徒の多様な進路希望に合わせ、職員全員で分担し進路実現に取り組んでいる
- ・若い職員を中心にInstagramを頻繁に更新し、情報発信
- ・分校の生徒との昼食交流会を計画している

【定時制】山崎教頭

- ・少人数できめ細やかな指導
- ・卒業後、社会に繋げていける進路指導を軸に
- ・支援が必要な生徒が多く在籍している

(3) 学校関係者評価について説明

- ・学校行事の参観、授業の参観（6/7～9 学校祭、10/23 創立40周年記念行事、11/2 オープンスクール、5/15 定時制教育振興会総会）
- ・12～1月にかけて自己評価、最後の学校運営協議会で評価。

(4) 学校経営計画について意見・助言

湯山委員：

Q1：スクールミッションとは、県教委からミッションが送られてくるのか。

A1：（櫻井校長）元々は学校が提案して申請したものを、県教委が確認してスクールミ

ッションという形で示されている。文部科学省の流れから、静岡県の公立高校では「スクールミッション」「グラディエーションポリシー」等という言葉を使っている。

Q2：定時制の新入生 8 名の様子はいかがか。

A2：（山崎教頭）基本的には 8 名とも毎日元気に登校している。滑り出しは順調。

Q3：熱中症の警戒宣言に対する対応は。体育はできないのか。

A3：（渡邊教頭）準備や対策を十分にしたい。部活動は夏に大会がある。練習しないで大会に出るほうが危険。

齋藤委員：

Q1：少子化の影響もあると思うが、学校規模が小さくなってきて心配。小山高校の特色や小山高校の良さを伝えていけると良いと思う。

A1：（櫻井校長）特色化の面では、昨年度、小山町内中学校と町教委と連携を取り、中学生を惹きつけるための本校の特色化・魅力化の会議を立ち上げて進めている。

Q2：保護者との関わりあいが気になる。PTA総会の出席率はどうのくらいか。

A2：（渡邊教頭）PTA総会の出席率については、半分以上は来ている印象。

Q3：『善行ウォークラリー』はもうやっていないのか。外から見ると、善行ウォークラリーとマラソン大会は、小山高の生徒を見掛ける良い機会であったと思う。

A3：（渡邊教頭）昨年までは実施していた。生徒の体力面・交通等安全面に問題があるということで、町内を歩いて町内を知るという点で魅力のある行事ではあったが、今年からは青少年交流の家に場所を変えて実施。

Q4：就職希望者はどこへ行っているのか。商工会は（人を）欲しがっている。

A4：（渡邊教頭）学校に届いた求人票を見て、生徒が希望するところへ行っている。就職には公務員も含まれている。

Q5：自転車通学の生徒は何人か。ヘルメットはしないか。事故はないか。

A5：318 人中、自転車通学 101 人、JR 併用 34 人、合計 135 人。半分弱が自転車利用。ヘルメット着用は、推奨しているが強制ではない。着用率は高くなってきている。ヘルメットをかぶっていて助かったという事故が 2 件くらいあった。

田村委員：

Q1：定時制卒業生は例年 7～8 人が昨年度は 2 人だが、何か（理由が）あるのか。

A1：（山崎教頭）入学当初は 4 人（入学時から少ない）。卒業した 2 人の生徒は、兄弟。

Q2：今年の全日制は定員割れせず、入学生が多かったのは今までのInstagram等の成果が大きいのか。入学式では御殿場小山の中学校の先生方が何人もいらっしやって、小山高校の魅力が上手く伝わっていると思うので、ぜひ継続されると良いと思う。

A2：（櫻井校長）高校側の発信もあるが、中学校でも「北駿の生徒は、北駿で育てよう」と考えてくれている。北駿の中学3年生の中で、北駿の学校へ進路希望を持っている生徒はこれまで50%未満だったが、今年は初めて50%を超えた。「遠くへ出ることのデメリット」「自身が何をやりたいのか」「地元の高校に何があるのか」ということを、中学の先生の上手な説明で、地元を支えてくれたという印象がある。

お隣なので、安全面では是非協力させていただきたいと思うので、何か気づきがあれば言っていただきたい。就職関係も。希望があれば、日立ハイテクの女子バスケットボールのチーム（茨城県勝田）との交流会も可能。コロナ前には、訪問して交流したこともある。

長田委員：

Q1：特別支援学校の分校が開校したが、雰囲気は。特に全日生生徒との関わりは。

A1：（渡邊教頭）対面式や防災訓練を一緒に活動している。朝の読書の時間に分校生徒が来て自己紹介するなど、共生教育を進めている。まだ手探りの状況ではあるが、色々な意味で刺激になっている。生徒の様子は順調にいつている。

近隣校の公立高校にはない特色なので、これが強みとなって、「小山高校に行くと多様な学びができる」となると良いと思う。

山下委員：

小山高の生徒は、いい子が多く落ち着いて授業をやっている印象。小山町に1校しかない高校なので、町や地域との繋がりをもっと深めて、学校の特色を生かして、新たに入学者が増えて、学校がずっと続いていくのは、重要なことだと思う。

Instagramは、親も中学生も動画も写真もよく見るので、どんどん発信していったら新たな入学者が増える重要な要因になると思う。先日の学年行事の様子が、当日や翌日に見ることができて「早いな」と感じた。良いことだと思うので、継続していただきたい。

4 閉会・諸連絡

今後の予定

第2回 令和6年11月14日（木）午後2時30分～午後4時30分

第3回 令和7年2月5日（水）午後3時～午後5時